

中 根 式

速記法原理 上卷

中根速記協會香川県支部

## 目 次

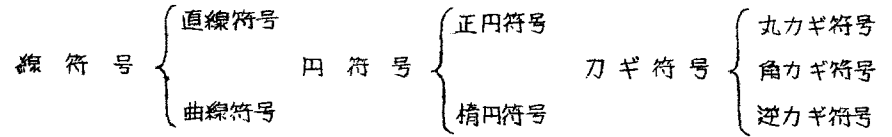
<b>A. 予備知識 1～4</b>	7. 拗長音記法 .....15
1. 符号の形象 ..... 1	8. 拗短音記法 ..... 16
2. 符号の方角 ..... 1	9. 円尾音記法 ..... 17
3. 符号の比率 ..... 2	10. イ尾音記法 ..... 18
4. 線符号に対する位置の呼び方 ..... 2～4	11. ヴ尾音記法 ..... 18
5. 円符号に対する位置の呼び方 ..... 4	12. ク尾音記法 ..... 18～19
<b>B. 符号運用の原則 5～10</b>	13. キ尾音記法 ..... 19
1. 進行原則 ..... 5	14. 助詞記法 ..... 19～23
2. 墨群原則 ..... 5	15. 助動詞記法 ..... 23～24
3. 配置原則 ..... 6	16. 才列表示法(妙法) ..... 24
4. 連続原則 ..... 7～11	17. 工列表示法(冠上法) ..... 24
<b>C. 各音記法原理 11～26</b>	18. ウス又ムル音縮記法 ..... 24
1. 濁音符号 ..... 11～12	19. 各行縮記法 ..... 25
2. 疊音記法 ..... 12～13	20. 短記法 ..... 25
3. 浊音記法 ..... 13	21. 特殊漢音縮記法 ..... 25～26
4. 半浊音記法 ..... 13	22. ヴタリウ記法 ..... 26
5. 詰音記法 ..... 13	
6. 長音記法 ..... 14	



## A. 豫備知識

### 1. 符号の形象

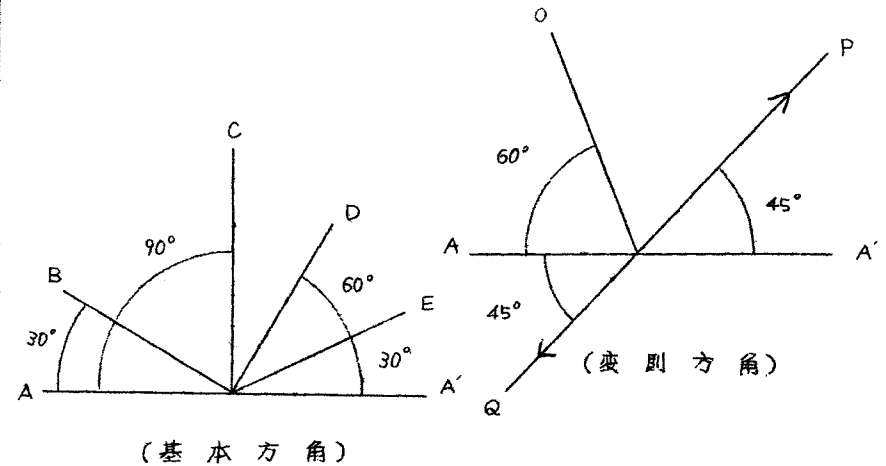
符号を、その形の上から線円及びカギの四種に大別する。



### 2. 符号の方角

方角とは、符号運筆の方向と傾斜の角度を同時に表現する術語である。

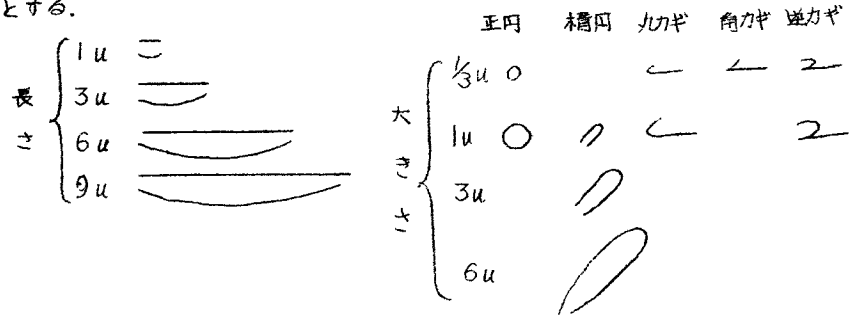
方角を、基本方角と変則方角とに分ける。



- ★ 各符号には、それぞれ方角がある。いいかえると上の8方角から各線符号が作られる。
- ★ 各符号は、矢印の方向に書く。
- ★ P、Q線が連続するときには、互いに角度をすこしかえてよい。

### 3. 符号の比率

符号の長短、大小の基準になるものを  $u, n, i, t$  (単位) という。1  $u$  は  $3mm$  とする。



### 4. 線符号に対する位置の呼び方

#### (1) 頭部、中部、尾部

- 頭部 ..... 書きはじめの部分
- 尾部 ..... 書きおわりの部分
- 中部 ..... 頭部と尾部の中間の部分

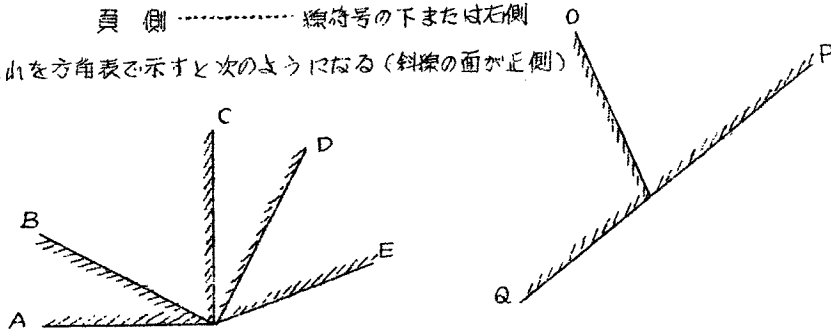
#### (2) 正側、負側

正側、負側とは、線符号のある一方の側をあらわす術語である。

正側 ..... 線符号の上または左側

負側 ..... 線符号の下または右側

これを方角表で示すと次のようになる(斜線の面が正側)



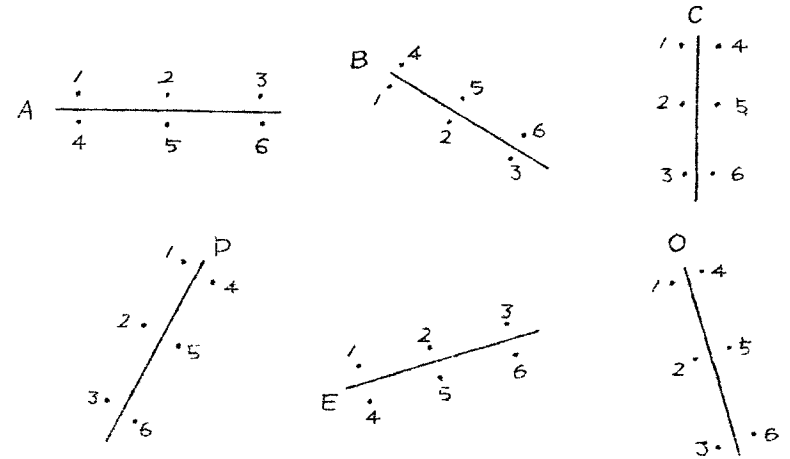
★ 上の8方角から各線符号が作り出されるため、方角表によって正側負側を示すことは、全部の線符号一つ一つについて説明するのと同じことである。

★ 負側は「下または右側」とあるため、B方角の正側が、あたかも下側のように見え、従つて負側というのが正しいように思われるが、これはC方角が、そのまま左に傾いたものと考え、下側ではなく左側だと覚える。

- (3) 正側頭部 正側中部 正側尾部  
負側頭部 負側中部 負側尾部

さらに細かい位置を示すために使う。

今、各位置に加重したものを方角線によって示すと、次のようになる。



- 1. 正側頭部
- 2. 正側中部
- 3. 正側尾部
- 4. 負側頭部
- 5. 負側中部
- 6. 負側尾部

★ PとQ方角は角度は同じでも書き傾きが違うため、頭部と尾部の位置が異なっている。

## 5. 円符号に対する位置の呼び方

### (1) 頭部、中部、尾部

楕円符号に対してのみ使う。

頭部 …………… 折り返しのところ、

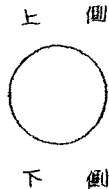
尾部 …………… 終りのところ、

中部 …………… その中間



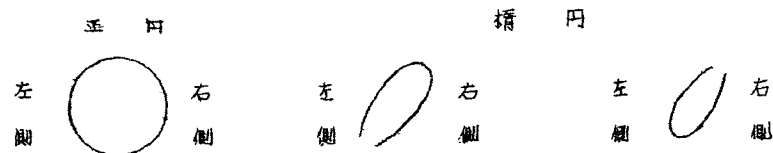
### (2) 上側、下側

正円符号に対してのみ使う。



### (3) 左側、右側

線符号の正側、負側に相当する。



## B. 符号運用の原則

### 1. 運行原則

運行原則とは「左から右へ横書きする」（左起右行）という、符号全体の流し方を規定した大原則である。

それは左から右へ横に書いて行くことが、速記符号の書き方としては最も能率的効果的であるからである。もちろん個々の符号の中には上から下へ、下から上へ行くものもあつたり、ときには右から左へ行く（原則とは反対に見える）のさえも無いではない、しかしそれはあくまで部分的な動きであつて、符号全体の流れとしては、常に左から右へ、左から右へと流して行くのである。

### 2. 単群原則

単群原則とは左から右へ、左から右へと流して行く符号の流れを、どこで区切りどこから分ち書きをするか、どれだけの符号をひとまとめの符号（単群符号）として扱うかということの規定したものである。

これを文節分綴と関連綴綴の二つに分けることができる。

#### (1) 文節分綴

速記符号は原則として文節ごとに分綴（分ち書き）し、その間隔は1u（3mm）ないし2u（6mm）とする。

(例) 暗い、冬が、過ぎて、明かるい、春が、来た。

★ 上の例で区切られているのが文節

#### (2) 関連綴綴

頻度の高い語句とか、互いに関連を持った語句を、文節ごとに分ち書きするという事は、符号書記上からも、反訳の呉からも無理が生じ、不合理な案がある。このようなときには文節分綴の原則から離れてひとまとめに書く、これを綴綴と呼ぶ。

(例) せんとするものであります。 のでありますけれども。

國民生活の安定と向上につまましては。

### 3. 配置原則

速記符号を書記するにあたっては、普通文字のときと同様、字くはりということが大切である。このことを規定した原則を配置原則という。

#### (1) 中心線の設定

各単群符号の最初の符号は、同一線上にあるように書かぬばならない。この目に見えない（各単群符号の書記位置をさめる）線を中心線と叫び、単群符号の最後の符号の位置から、次の単群符号の最初の符号へ移ることを、中心線への復帰という。もし前単群符号の最終の位置が中心線よりあまりにも上または下にあるときには中心線への復帰は長い空間を通らねばならない。たとえそれが6u（18mm）あるいは9u（27mm）の空間であつても、高速度の速記には、それが苦痛に感じる。このようなときには、前単群符号の最後の符号の中部の線上を中心線と見え、ここへ復帰するようにする。

#### (2) 一行の長さ

手首を軽く固定して、左右に一本の線を引いてみる。この長さが一行の長さである。

これは次の行に移る運動が最も早くできる長さの極限のもので、もしこれより長くすると、手首の位置をいったん動かさなければならぬから、それだけ次の行への移行も遅くなるわけである。

#### (3) 行の配置

行の配置は、左より右の方をすこしまけい空白にしておく。急に速度が早くなり行を変える余裕のないときなど、続けて、その空白に書いて行けるし、関連縮綴のとき空白がないと、分綴して次の行に書かぬばならないようなことが起るからである。

### 4. 連続原則

#### (1) 二線一筆化の原則

符号書記の場合、二線が一筆化できるにもかかわらず、これを一線一挙動で書けば、線の継ぎ目で一瞬筆が止まるので、実際はそこで目に見えないある一つの線を書いているのと同じで、結果的には三挙動であり、二線書きながら、三線書いたのと同じである。これを一筆化の法則によつて、あたかも一線のように書けば、一挙動ですみ、より合理的なのである。

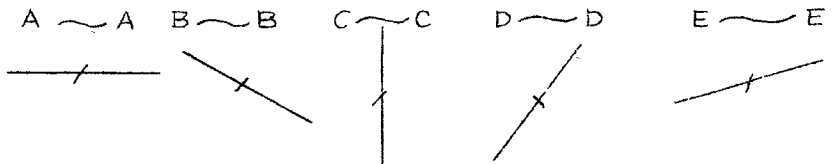
次の各項の場合は、二線一筆化が可能な場合である。

- ★ 各項に付した例は、基本方向のみであるが、変則方向の場合でも法則に合致すれば、一筆化してよい。
- ★ 例には二線が同じ長さの場合を示したが、どちらか一方が長い場合も一筆化してよい。

A. 同方向の同じ太さの直線の連続されたとき。

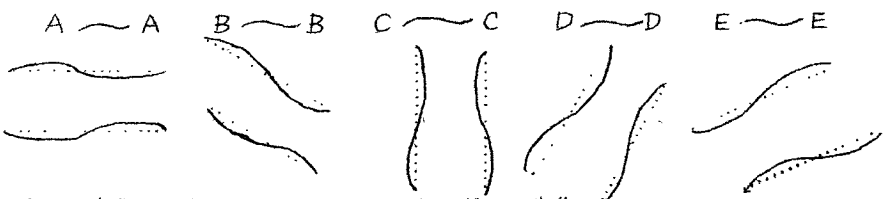
- ★ 但し、この場合は二線の継ぎ目を $\frac{1}{2}$ u直線と切る。これを切り線という。

(例)



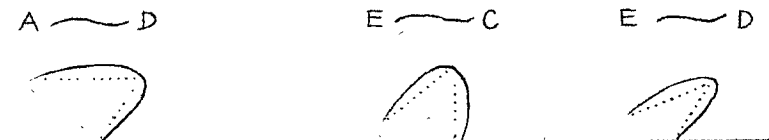
B. 同方向二直線に沿つた互いに波状をなす曲線。

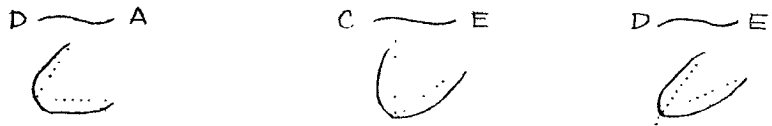
(例)



C. 二直線が鋭角をなすとき、その外側に沿つた曲線

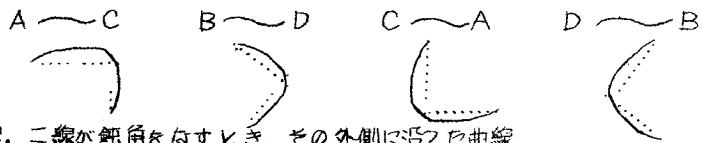
(例)





d. 二直線が直角をなすとき、その外側に沿った曲線

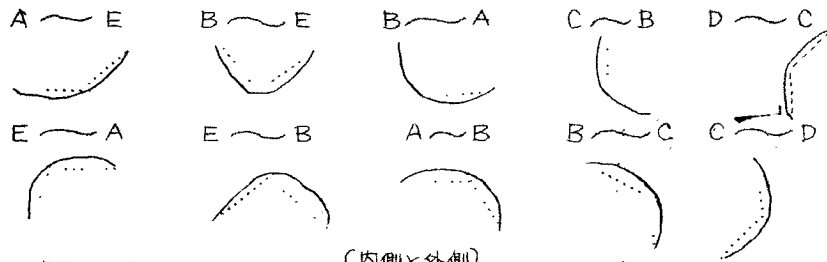
(例)



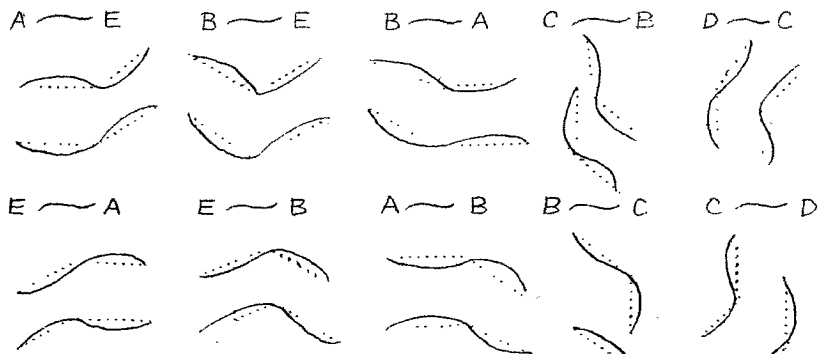
e. 二線が鈍角をなすとき、その外側に沿った曲線

★ E~A のとき E の角度は変化  
B~A " B " "

(例)



f. 二直線が鈍角をなすとき、その {内側と外側 / 外側と内側} に沿った曲線  
(例)



★ B~E を  
E~B を  
のように角度を変化して一筆化しなくて  
よい。

## (2) 線頭の円符号の書記原則

- ★ 円符号を逆記したときのことである。(N尾音記法 イ尾音記法)
- a. 直線符号に対しては正側へ。
- b. 曲線符号に対しては内側へ。

## (3) 線間の円符号の書記原則

- ★ 円符号逆記のときのことである (全 と )
- a. 同方向二直線間の円符号は正側へ。
- b. 異方向二直線間の円符号は角の外側へ。
- c. 二曲線間の円符号は前の曲線の内側へ。
- d. 曲線と直線間の円符号は曲線の内側へ。
- e. 直線と曲線間の円符号は曲線の内側へ。

## (4) 線尾の円符号の書記原則

- ★ 円符号順記のときのことである。(助詞「は」「も」「に」etc)
- a. 直線符号に対しては負側へ。
- b. 曲線符号に対しては内側へ。

## (5) 線頭、線間のカギ符号の書記原則

- ★ カギ符号逆記のときのことである。(長音、拗長音、拗短音、ク尾音記法、キ尾音記法)
- ★ 線間の大カギが書きにくいときは半カギに変化さす。

逆記すべき符号が { 直線の場合は正側へ。  
曲線の場合は内側へ。

## (6) 線間の大丸カギ連続の一筆化原則

(長音、拗長音、拗短音記法)

二線が { 鋭角 / 直角 } を形どるとき、後の線の正側についた大カギは省略二線の継ぎ目を丸め、二線を一筆化する。

## (7) 線尾のカギ符号の書記原則

- ★ カギ符号順記のときのことである。 { 正カギ 助詞「の」  
逆カギ 助詞「には」

Q. 直線に対しては真側

β. 曲線に対しては  $\left\{ \begin{array}{l} \text{逆カギは外側} \\ \text{正カギは内側} \end{array} \right.$

(8) 線頭、線間の逆カギ符号の書記原則

★ 逆カギ逆記のときのことである (マ行、ハ行、ワ行縮記法)

Q. 直線に対しては正側

β. 曲線に対しては、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{A, B 方向には外側} \\ \text{その他は正側} \end{array} \right.$

(9) 線間の逆カギ符号の書記原則

★ 逆カギ逆記のときのことである (節 同)

Q. 前符号が直線するとき (8) の要領

β. 前符号が曲線するとき、曲線の内側に正カギをつけて後符号を続ける。

(10) 濃線表示の別法とその便法

別法  $\left\{ \begin{array}{l} \text{a. 濃直線のかわりに淡線の正側中部に加臭してあらわす。} \\ \quad \star \text{ 但しクは } | \cdot \text{ フは } \cdot | \text{ とする} \\ \quad \star \text{ 正側中部に加臭してある符号を加臭符号という。} \\ \text{β. 濃曲線のかわりに淡線の中部を } \omega \text{ 直線で切る。} \\ \quad \star \text{ これを切り符号という。} \end{array} \right.$

便法  $\left\{ \begin{array}{l} \text{a. 加臭符号+加臭符号} \dots\dots \text{ 前の加臭符号の加臭位置をそのまま二線の継ぎ目に} \\ \quad \text{移行} \\ \text{β. 切り符号+切り符号} \dots\dots \text{ 後の切り符号の } \omega \text{ 直線をその頭部に移行} \\ \text{γ. 加臭符号+切り符号} \\ \quad \text{切り符号+加臭符号} \end{array} \right. \text{ 加臭キレに変化し切り符号に接近さす。}$

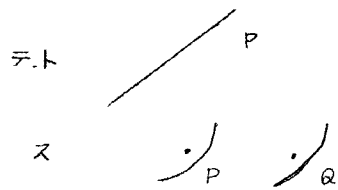
# C. 各音記法原理

## 1. 清音符号

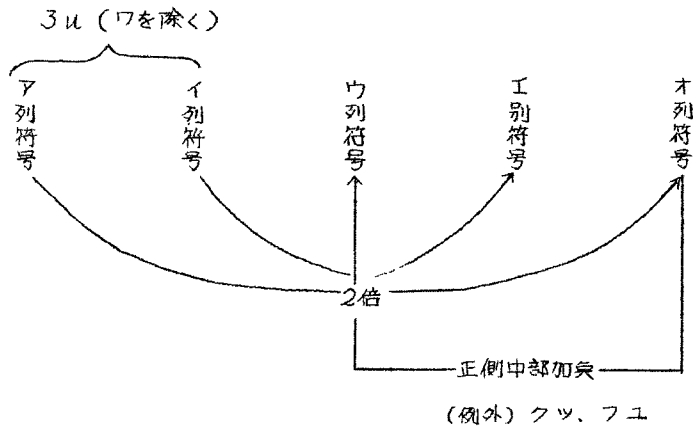
(1) 清音符号表

	ア列	イ列	ウ列	エ列	オ列
ア列					
カ列					
サ列					
タ列					
ナ列					
ハ列					
マ列					
ヤ列					
ラ列					
ワ列					

(2) 変則 濁音符号



(3) 濁音符号構成原則



2. 疊音記法

- (1) 一音くり返しするとき
  - 直線符号には 真側頭部に小丸カギ
  - 曲線符号には 外側頭部に小丸カギ
- (2) 二音以上くり返しするとき 尾部に丁字形に2直線をつける。
  - ★ 一音くり返しするとき、曲線符号の外側頭部に小丸カギは書きにくいので、これを3u直線に変化させます。
  - ★ 二音のときでも、くり返す音が一本の線であらわされるときには一音くり返しの法則を準用する。
  - ★ 二音以上くり返しの次に助詞符号のつくときには、まず助詞符号を書記し、各々空間をあけて各々直線を丁字形につける。

★ くり返された音が濁音のときも、清音のときと同様に書いてよい。

3. 濁音記法

- (1) 淡線を濃線化して濁音をあらわす。
- (2) 濃直線には正側中部に加糸してあらわす。
- (3) 子(し)を濃線にするとクになるので、同音「シ」の符号を代用する。

- ★ 濁音の表示をしなくても、文の前後の意味、常識などから判断できるものに対しては、濁音表示をしなくてもよい。
- ★ どうしても濁音の表示を施さなければ他の語と混同するおそれのあるものに対しては、絶対に濁音表示をしなければならない。
- ★ 濃淡によつて音を区別することは、音速度の速記では困難なので、濃線表示の別法と便法とを使用するとよい。

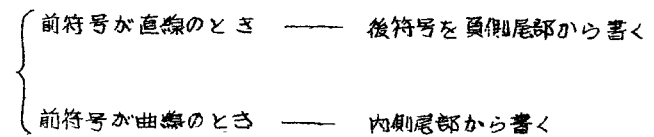
4. 半濁音記法

清音符号の正側中部に外向き小半円(3u)をつけて、半濁音をあらわす。

- ★ 鼻音、詰音の次のハ行音は、バ行音に変化して発音されるため、このようなときには半濁音の表示をなくともよい。
- ★ それ以外のときでも判断できる範囲で、できるだけ半濁音表示は施さないようにする。

5. 詰音記法

- (1) 前符号の尾部に後符号の頭部を浅く交叉して詰音をあらわす。
- (2) 交叉すると書きにくい、または交叉できないときには、





## 6. 長音記法

(1) ウ列とオ列の長音は、大カギ(「u」)を直音符号に並記してあらわす。

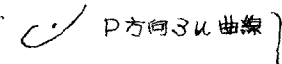
(2) ウオ列以外の長音は、各列の母音符号を直音符号に連続する。

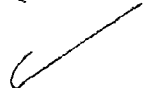
★ 大カギのつけ方は、連続原則による。


★ 前符号の関係で大カギの書きにくいときには、大カギを適当に変化させます。


★ ウ列とオ列の長音は「クウ」「コウ」のように、普通文字では「ウ」の字であらわすことができるので、大カギは、「ウ」に相当するものと考えてよい。


(3) 変則長音符号

スウ {  P方向3u曲線 }  
 (変則ス符号)に大カギ

トウ  P方向6u直線(変則ト符号)に大カギ

ユウ  E方向3u曲線(イ符号)に大カギ(ウ)をつけて「イウ」。  
 「イウ」と「コウ」は同音のため「ユウ」の変則符号として使用。

ヨウ  E方向6u曲線(エ符号)に大カギ(ウ)をつけて「エウ」。  
 「エウ」と「ヨウ」は同音のため「ヨウ」の変則符号として使用。

ソウ  P方向6u曲線

ホウ  P方向3u多円

(4) 前符号の中部に後符号を接触して、前後の符号についた、大カギ(ウ)をあらわす。

但し、前符号が直音以外のときは、後符号についた大カギ(ウ)のみをあらわす。

## 7. 拗長音記法

(1) 拗長音第二列はイ列符号に、第三列はI列符号に大カギ(「u」)を並記してあらわす。


★ 大カギのつけ方は、連続原則による。

★ 前符号の関係で大カギの書きにくいときには、大カギを適当に変化させます。

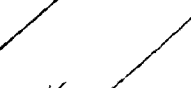
★ 拗長音第二列、三列は「シウ」「セウ」のように、「ウ」であらわすことができるので、長音の大カギが「ウ」であらわしたのと同じように拗長音二列、三列の大カギも「ウ」であらわすと思えばよい。

(2) 拗長音第一列は、拗短音第一列の符号にアの符号を連続してあらわす。

(3) 変則拗長音符号

ヘウ  Q方向3u多円

ケウ {  P方向9u直線 }  
 P方向9u直線

ケウ {  Q方向9u直線 }  
 Q方向9u直線

セウ {  P方向3u曲線に大カギ }  
 P方向3u曲線に大カギ

セウ {  Q方向6u曲線に大カギ }  
 Q方向6u曲線に大カギ

(4) 前符号の中部に後符号を接触して前後の符号についた大カギ(ウ)をあらわす。

但し、前符号が直音以外のときは、後符号についた大カギ(ウ)のみをあらわす。

## 8. 拗短音記法

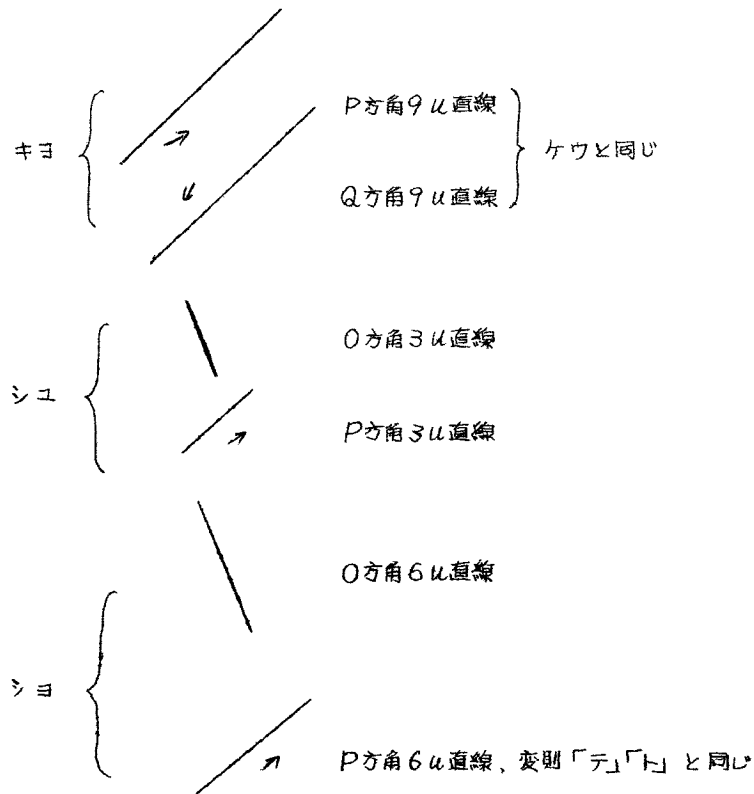
(1) 拗短音第一列は、ア列符号の頭部に大カギ(1u)をつけてあらわす。

大カギのつけ方は、連続原則による。

(2) 拗短音第二列の「キユ」「チユ」は拗長音「キウ」「チウ」の反対側に大カギをつけてあらわす。「シユ」は「タ」の負側頭部に大カギをつけてあらわす。それ以外は、拗長音の大カギ内部に加算してあらわす。

(3) 拗短音第三列は、「リョ」を除いて第二列を2倍の長さ(6u)にすることによってあらわす。「リョ」は「テ」の正側頭部に大カギをつけてあらわす。

(4) 変則拗短音符号



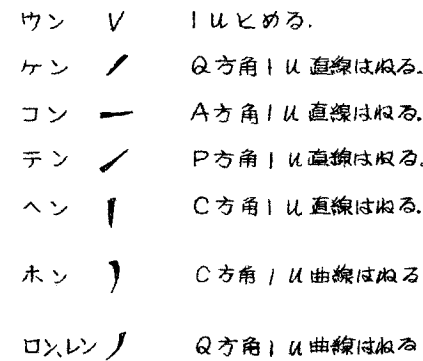
## 9. N尾音記法

(1) 鼻音(ン)は、小円(1/2u)を逆記してあらわす。

★ 直音 } 符号に対する小円のつけ方は、連続原則による。  
 変則拗短音 }

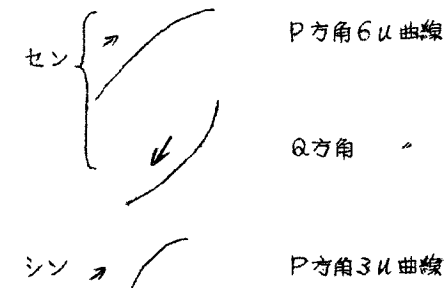
★ 大カギのついている、拗短音符号に対する小円のつけ方は、大カギ内につける。

(2) 変則N尾音符号



★ ただちに助詞符号を連続できない(ヲ, ヲモは連続してもよい)

★ ただちに各線符号を連続するときは負側尾部から書記する。



★ 主として最初に、セン、シンが発音されたときに使用する。

- (3) 三音以上の単語で二音目に鼻音のあるときには、一音目の符号を書き、尾部を上または下にはねても可)その正側または負側尾部から三音目の符号を書く。
- (4) 詰音の次に鼻音を帯有する音の発音されたときには、詰音表示をしなくてよい。誤訳のおそれあるときには、鼻音符号に加算しておく。
- (5) 前符号の中部に空間をとり後符号を書き、前後の符号についた鼻音をあらわす。但し、前符号が直音と拗短音以外ときには、後符号の鼻音のみをあらわす。

## 10. イ尾音記法

(1) 大円(1u)を直音符号に逆記してイ音をあらわす。

★ 大円のつけ方は、連綴原則による。

(2) ア列「ヤ」を除いた音、エ列の全部及び「ス、ツ、ユ、ル」音の次にイ音が来るときは、それらの符号を1u線化してイ音をあらわす。

★ 1u線によるイ尾音記法は、二音目にイ音の発音されるときに使う。  
三音以下のときでも語彙の次の○イ音あるいは前符号との関係が一筆化、直角、鋭角になるときには使ってもよい。

(3) 1uN尾音符号の中部に深く交叉して四音目のイ音をあらわす。

## 11. ツ、子尾音記法

(1) 二音目に発音されるツ、子音は、右尾小円(1/2u)を逆記してあらわす。

(2) 三音目以下のツ、子音は、前符号の尾部に空間(1/2u)を依ってあらわす。

(3) 変則ツ尾音記法

ケツ ← Q方角1u直線

★ ツ、子尾音にも同一の法則が適用される。

★ 語彙の次にツ、子音を帯有する音の発音されたときには、語彙表示をしなくてよい。誤訳のおそれあるときには、ツ、子尾音符号に加えておく。

## 12. ク尾音記法

(1) 小角カギ(1/2u)を逆記してク音をあらわす。

(2) 大カギのついた拗短音符号にク符号をつけるときには

大カギを省略、  
 { 直線に対しては — 大カギのついていた方へ、小角カギをつける。  
 { 曲線に対しては — 大カギのついていたのと反対の方へ、小角カギをつける。

(3) 三音以下のク音で小角カギの付けにくいときは、前符号の尾部に後符号の頭部を1u出してあらわす。

(4) 変則ク尾音符号

トク ← P方角1u直線

コク { ← P方角3u直線

ソク { ← Q方角1u直線

トク { ← P方角1u曲線

ソク { ← Q方角1u曲線

★ ク尾音にも以上の符号を準用する。

## 13. キ尾音記法

(1) 小丸カギ(1/2u)を逆記してキ音をあらわす。

★ 小丸カギのつけ方は、連綴原則による。

★ 線間の小丸カギの書きにくいときには、前符号の尾部に深く交叉してあらわす。

(2) 変則キ尾音符号

セキ { ← P方角1u曲線

テキ ← Q方角1u直線

★ キ尾音にも以上の符号を準用する。

## 14. 助詞記法

★ 助詞符号は、順記する。

★ 國文法でいう助詞とは違ったものもある。

★ 連綴の実際を3uの直線、曲線に連綴して例を示す。

★ 例の中で、印は角度を適当に変えて書きよいようにする。

(1) 連綴原則によつて連綴するもの

★ 直線に連綴する「テ」は例外

の ..... 大カギ(1u)

→ 6

は(は) ..... 小田(1/3u)

に ..... 有尾小田(1/3u)

し(じ) ..... 大田(1u)

す(す) ..... 加兵大田(1u)

か ..... 有尾大田(1u)

とか ..... 加兵有尾大田(1u)

て(て) { 直線 ..... 方向直線(1u)

          { 曲線 ..... 大分田(1u)

★ 直線と曲線とにつく「て」「で」の助詞が違ふのは直線には大田符号がつけにくいからである。

も ..... 有尾小分田(1/3u)

には ..... 逆小カギ(1/3u)

(2) 連続方向の一定したもの

へ ..... I符号を1/3 ~ 1u化

ただ) { 夕符号を1/3 ~ 1u化

した(した) {

よ ..... 日符号を1/3 ~ 1u化

ず(I列+ず) ..... フ符号を1/3 ~ 1u化

と(ど) ..... PQ方角1/3 ~ 1u直線

          はぬる

が ..... A.C方角1/3 ~ 1u直線

を ..... 尾部を1/3 ~ 1u直線で切る

でも ..... 尾部を1/3 ~ 1u曲線で切る

          但し、曲線に対しては(3)の書き方

では(では) --- 小田(1u)を「は(は)」助詞と反対側へ

にも ..... 有尾小田(1u)を「に」助詞と反対側へ

(3) 二つ以上の助詞が連続するときには、各符号を、そのまま連続する。書にくいときには一方を基本符号で書いてよい。

○ は前符号を意味する。

のは .....

のに .....

のか .....

のかも .....

のち --- ㄣ ㇀	のには --- ㄣ ㇀ 或いは ㇀
のだ --- ㄣ ㇀	のと --- ㄣ ㇀
のが --- ㄣ ㇀	のを --- ㄣ ㇀
のでは --- ㇀	のにも --- ㇀
すか --- ㇀ ㇀	すか --- ㇀ ㇀
かの --- ㇀ ㇀	かぞ --- ㇀ ㇀
かも --- ㇀ ㇀	かだ --- ㇀ ㇀
かこ --- ㇀ ㇀	かが --- ㇀ ㇀
かを --- ㇀ ㇀	この --- ㇀ ㇀
でも --- ㇀	ぞと --- ㄣ ㇀
との --- ㄣ ㇀	とは --- ㄣ ㇀
とに --- ㄣ ㇀	とし --- ㇀ ㇀
とす --- ㇀ ㇀	とか何とか --- ㇀ ㇀
とて(て) --- ㄣ ㇀	とでは --- ㄣ ㇀

とした --- ㄣ ㇀	とせず --- ㄣ ㇀
とが --- ㄣ ㇀	とを --- ㄣ ㇀
へは(は) --- ㄣ ㇀	へと --- ㄣ ㇀
せずば --- ㇀ ㇀	せずんば --- ㇀ ㇀

### 15. 助動詞記法

(1) 加臭によるもの

A. 正側中部に加臭してラレルをあらわす。  
★ ア列に活用してカレル、サレル、タレル、ナレル、マレル、ラレル、ワレルに使つてもよい。

B. 真側中部に加臭してセラレルをあらわす。  
★ イ列に活用して、エラレル、ケラレル、テラレル、ネラレル、メラレル、に使つてもよい。

C. 正側尾部に加臭してヌル(ヌル)をあらわす。  
★ ウ列に活用して、ウル、クル、ツル、ヌル、フル、ムル、ユル、に使つてもよい。

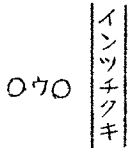
D. 真側頭部に加臭して(シ)マシテ、真側尾部に加臭して(シ)マシタ、尾部に加臭してシテ、ノテ、マテをあらわす。

E. ラレル } の語尾変化をあらわすには、加臭位置に次のように書記する。  
セラレル }

ラレ	ラレれば	ラル	ラルル
セラレ	セラレれば	セラル	セラルル



- ツチ ..... 尾部空間
- ク ..... 尾部にク符号
- キ ..... 尾部に交叉
- ウ ..... 中部接触 接線困難のときは正側尾部

②  の形式の場合

インツチクキをあらわす符号を一音目の頭部に書いてあらわす。

インツチフキの符号

イ ..... 頭部を $\frac{1}{2}$ u直線で切る。

ン ..... 鼻

ツチ ..... 頭部に $\frac{1}{2}$ u直線をT字形につける。

クキ .....  $\frac{1}{2}$ u半円

## 22. ツ、タ、ツテ、ロウ記法

ツタ ..... 小カギ( $\frac{1}{2}$ u)を逆記、小カギのつけにくいときには前符号に交叉、

ツテ ..... 大カギ(1u)を逆記、大カギのつけにくいときには前符号尾部との向に屈曲

ロウ ..... 負側中部に加鼻。

## 23. 敬詞記法・24. 類似音換記法。

(紙面の都合で略記法の部で詳述する)

## あとがき

この本は上下二巻に分け、上巻には縮記法を、下巻には略記法を収録した。

もちろん各巻ともその原理、法則の説明だけに止めてあるので、符号運用の実際について、または学習の順序、方法などについては述べられていない。

従つてそれらについては姉妹篇「中根式速記法講義録」を参照されたい。

非 賣 品

無断転載を禁ず

昭和27. 4. 1 印刷

昭和27. 4. 3 発行

編 集 中根速記協会香川県支部

香川県高松市栗林町 268

発行所 中根速記協会香川県支部

中 根 式

速記法原理 下卷

中根速記協会香川県支部



## まえがき

中根速記協会、香川県支部が、その形をまがりなりにも整えたのは、敗戦直後の昭和20年であつた。

尔來七年有余あるいは中根正世、先生を当地にお迎えして、各高等学校に速記講演をお願いし、あるいは香川県高等学校中根式速記競技大会の開催に協力する一方後進の指導にも微力を捧げて来た結果、

昭和23年の第一回さらに翌年第二回全国大会における大塚都夫君の全團優勝、紅野省一君(四國新聞社)、木下博夫君(高松市議会)、石川実君(丸龜市議会)等の新人を専門速記界に送り出すなど、微力をしたものであるが、その成果を収めてきた。

それにつれて支部に関係した人々の研究案が何ほどか提起されてきたことは当然のことであり、その一つ一つについては、はげしい消長の過程を経て、今日ようやく、その結果がまとまりつつあるように思える。

幸い、高松丸龜両商業高校速記科の教授、あるいは県教育委員会の主催する速記講習会等に機を得て、以上の研究案も含めた香川県支部による中根式速記法の体系を立ててみようと思いつき、それにとりかかつたのは、敗軍(昭和26年)の八月初めであつた。

そして『中根式速記法原理』という中根式速記協会香川県支部版上巻が、昨年の十一月に完成された。下巻も引続きまとめ上げようと努めたが、実務その他の関係で意にまかせず、やつと今日、まとまり終つた、ほんとに『やつと』終つたという感じである。(なお上巻のミス、フリントの呉は、丁度年度のかわりの今年の四月に訂正版を出し、訂正されることのできた)

従つて、時間をあまりかけずに上、下巻とも、まとめあげたので叙述の呉で疎漏の呉が多くあることが、まず第一にあげられ、さらには、研究案をまとめた呉は、中根式の三十有余年の厂史に比べて、その実務経験も、なお乏しく、さらに研究の余地が多分に残されておる呉が毫末に当つて危惧せられる大きな呉である。その意味で断つておきたいのは、この二巻に掲載された、香川県支部の研究にかかる箇所は、本部の事前諒解を得ておらず、従つて單なる香川県支部のものしたものであり、責任はすべて香川県支部に帰するところであり、それらは今後本部の裁定の結果

## 目次

D. 各省略法原理	3~14	5. 寓意略法	10
1. 特殊略法	3	6. 接触略法	10
2. 段記略法	4	7. 交叉略法	11
3. 摘記略法	5~8	a. 單純交叉略法	11
A. 頭音摘記略法	5	b. 連続	11
B. 尾音	6	8. 9 u 線略法	12
C. 頭尾音	6	9. 語句省略法	12~13
D. 前音	7	a. 單純語句省略法	12
E. 後音	7	b. 隔省略法	12
F. 扱音	7~8	c. 反対語省略法	13
a. 單純扱音摘記略法	7	10. 狀況記法	13~14
b. 中間小かき略法	8	各音記法原理(上巻続)	
c. 同音平行略法	8	23. 数詞記法	15~19
4. 接記略法	9	24. 類似音換記法	20
A. 側接記略法	9		
B. 脚接記略法	9		
C. 下接記略法	9		

をまつて、初めて、その当を得るわけである。

今、上下二巻の“中根式速記法原理”を完成して、七年の過去を回顧するとき、その感懐は、つきるところをしらす、ただこの喜びを、ともに香川県支部を主体として、中根式速記の研究に励まれた人々と一日も早く分ち合いたいと思ふのみである。

日本速記術発表七十周年に当る

昭和27年4月10日

中根速記協会香川県支部

川 岡 秀 幸

植 田 結

# D 各省略法原理

## 1. 特殊略法

特殊略法とは、「特別高頻度語簡易記法」とでもいうべきもので、理窟を離れて基本符号などに関係なく、何でもいから速く簡単に書きたいという欲望が本能的に起るほど頻度の高い単語に限って適用される本来的な記法である。

この	その	あの	どの、殿
コ	ソ	ア	ン

こうい うわたくし	そうい う	ああい うわたくし	どうい う
--------------	----------	--------------	----------

コ	ソ	ア	ン
---	---	---	---

すなわち	とも どもに	パーセント	ないし
ノ	ノ	○ /	○ / ○

あります であります のであります。	全	ございます でございます でございます	全
--------------------------	---	---------------------------	---

○	全	○	○
---	---	---	---

ある である のである	おる てある	せんとする	です にもかかわらず
-------------------	-----------	-------	---------------

)	)	—	/
---	---	---	---

## 2. 段記略法

段記略法とは、位置を3段に活用して同一符号の3種類読みかえをやる記法のことである。

あります	ありまして	ありました
であります	でありますて	でありますた
のであります	のでありまして	のでありました。

— / — | — /

ございます	ございまして	ございました
でございます	でございますて	ございましたた。
のでございます	のでございまして	のでございました。

— | — | — |

おります	おりまして	おりました。
ております	ておりまして	ておりました。

..... ) )

## 3. 摘記略法

摘記略法とは、単語のなかのある音節だけを抜き書きして他を類推判断させる方法である。

### A. 頭音摘記略法

頭音摘記略法とは、2音節以上からなる、単語の最初の1音節だけを抜き書きして他を類推判断させる方法である。

※ 印は濃線表示を要しないもの

ある(或)	いずれ	これ	反対 始め
上	から 後	ぐらい	くらい
しかし	それ	ほど	説明
思う おいて 行く	さる ざる	たる	なる なり
ます します	やる	われ ※	ゆえ ※

## B. 尾音摘記略法

尾音摘記略法とは、2音節以上からなる単語の最後の1音節だけ抜き書きして他を類推判断せしめる方法である。

考える	必ず *	大むね	
たけ	あらかじめ	なご *	
たしか	とき	まさ *	政治 当時 同時

## C. 頭尾音摘記略法

頭尾音摘記略法とは、単語の最初の1音節と、最後の1音節だけを抜き書きして全体の音韻を類推判断させる方法で、相当重要な法則である。

新た	同じ *	及び *	むはや
再び *	あなみち	取調べ *	

## D. 前音摘記略法

前音摘記略法とは、字音語(漢語)だけに適用される法則で、2漢字の前字の音だけを抜き書きする方法である。

質問	ひたすら	そもそも	けだし
ことごとく	たちまち	つまり つまり	賛成

## E. 後音摘記略法

後音摘記略法とは、字音語(漢語)だけに適用される法則で、2漢字の後字の音だけを抜き書きする方法である。

状態	現在 *	運営	運用
運命 *	生活	計画	

## F. 択音省略法

択音省略法とは、単語のなかの任意の音節をいくつか選択して連続する方法で和語、漢語、洋語(外来語)いづれにも適用される法則である。

### a. 単純択音摘記略法

単純択音とは省略しようとする語の二音ないし三音をそのまま連続する書き方である。主として副詞などの略法として用いられる。

あゆむ ※ (例) いゆむ ※ すこぶる



はなはだしい。



B. 中向小かき略法

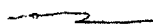
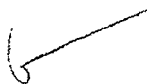
中向小かき略法とは、省略しようとする語の二音を小かきによつて連続する書き方である。

(例)

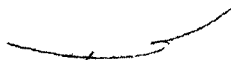
引続き

取締役

株式会社



値上げ ※



主として動詞と動詞の複合したものに適用する。

C. 同音平行略法

同音平行略法とは、主として四字からなる漢字の一字と三字目の同音の場合に、その音を平行して他を省略する書き方である。

(例)

四國四境  
新厚紙上

自分自身  
自給自足

微頭微尾

本月本日



## 4. 接記略法

接記略法とは、前の符号に後の符号を接近させて書くことによつて、何らかの意味と音韻をあらわす書き方である。後の符号の書かれる位置によつて、

(A) 側接 (B) 脚接 (C) 下接 の別がある。

### A. 側接記略法

側接記略法とは、ある符号の負側/1以内の所に接近してつぎの符号の一部を書くことによつて何らかの音韻をあらわす書き方である。

すべき  
ごとき



すべく  
づとく



すべし  
づとし



### B. 脚接記略法

脚接記略法とは、前の符号の下方に1/1以内の所で近接したところに、つぎの符号の頭部を約1/1出して書くことによつて特殊の読み方をよせる書き方である。

ない



しない



いない



えない



### C. 下接記略法

下接記略法とは、ある符号の下の方1/1以内の所に接近して書くことによつて、ある音韻を表記する方法である。

(例)

じゃない



かどうか



## 5. 寓意略法

寓意略法とは、音韻をあらわす、あるものにかこつけ、ことよせてそれとなくある意味をほのめかす書き方で、判じものめいたところもあるが、簡易化という点ですてがたい法則である。

(例)



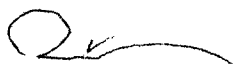
上回る



下回る



申し上げ



丸龜



当らぬといえども  
遠からず



消防

## 6. 接觸略法

接觸略法とは、互に関連する二語において前符号に後符号のいずれか一部を接觸させて書くことによつて、他の音を類推判断させる方法であつて、主として動詞的なものまたは人名に用いられる。

(例)

會ぎを閉く



よりをもどす



わき目もふらず

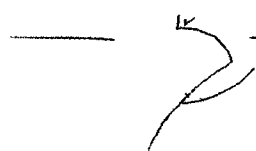
吉田茂



福沢諭吉



黒沢明



## 7. 交叉略法

交叉略法とは、互に関連する二語において前符号に後符号のいずれか一部を交叉させて書くことによつて他の音を類推判断させる方法であつて、主として熟語に類するものに用いられる。

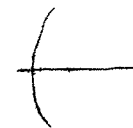
### 1. 單純交叉略法



予算委員会



経済の安定



平和國家



放出物資

### 2. 連続交叉略法

連続交叉略法とは、主として頻度の高い慣用語句の省略に用いられる書き方である

(例)



一所懸命



火を見るより明らか



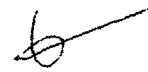
一日も早く



民主主義 ※



見返り資金 ※  
民主政治



引続き

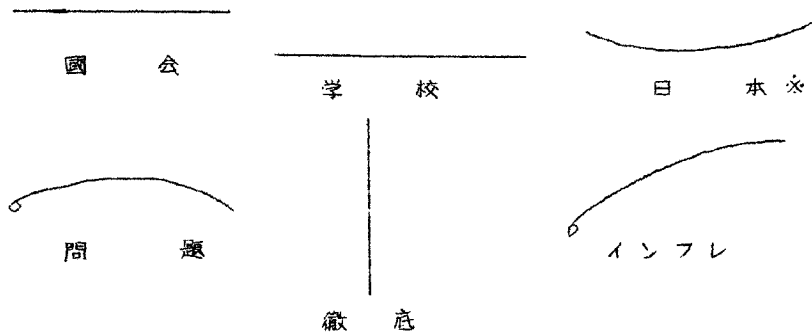


一部を改正

## 8. ㄩ線略法

ㄩ線略法とは、摘記法と区別するために、ある語の頭音または前音をㄩ線で書くことによつて、他の音を類推判断させる方法である。

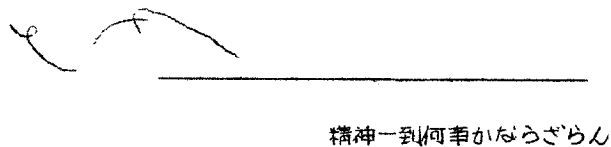
(例)



## 9. 語句省略法

語句省略法とは、記憶、想出の手がかりになる音韻だけを符号化してあとの類推できるものは、すべて書かない方法である。

### ㉑. 単純語句省略法



### ㉒. 隔省略法

隔省略法とは、ある言葉をへだてて同じ言葉が、くりかえされる時、そのまん中の言葉から後を省略する書き方である。

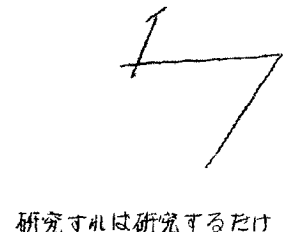
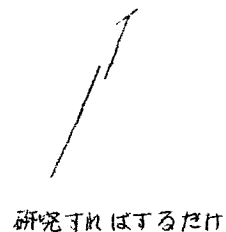
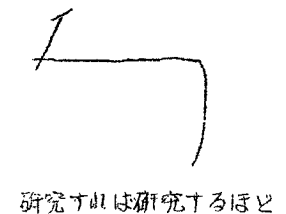
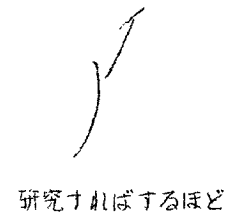
(例)

A ~~~~~ すればするほど

A ~~~~~ すれば ~~~~~ するほど

B ~~~~~ すればするだけ

B' ~~~~~ すれば ~~~~~ するだけ

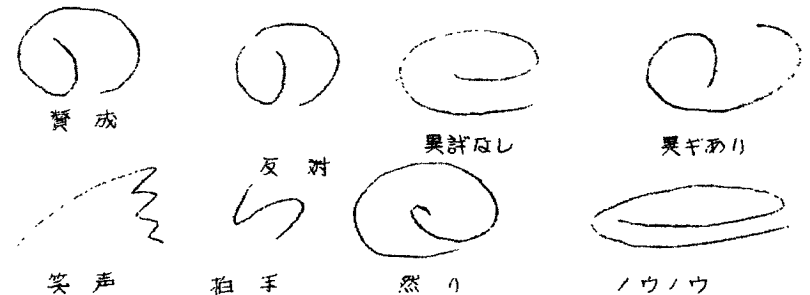


### C. 反対語省略法



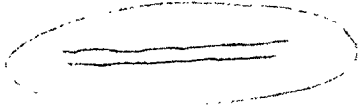
## 10. 状況記法

状況記法とは、速記をしている場所の状況、情景を描写する方法である。

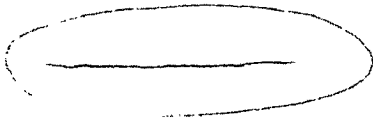




ヒヤヒヤ



多数一時に発言し、または喧騒聴取し難し、発言する者多し、または評場騒然、聴取する能わず



演述者低声

議長、委員長 座長等の交代

(紙の左端から右端まで引く)

〇〇君登壇



上巻に記載できなかった

23. 数詞記法

24. 類似音換記法

を以下に記述する。



## 23. 数詞記法

数詞記法とは、数詞に関する特別の記法を規定した法則で、普通の音韻符号、の系列とは、まったく別個の体系を形づくっている。

基 本

一位 1 2 3 4 5 6 7 8 9

十位 1/2/3/4/5/6/7/8/9

百位 1 2 3 4 5

千位 1 2 3 4

万位 1 2 3 4 5 6 7 8 9

十万 1/2/3/4/5/6/7/8/9

百万 1 2 3 4 5

千万 1 2 3 4

億 1/2/3/4/5/6/7/8/9

十億 ~~1~~ ~~2~~ ~~3~~ ~~4~~ ~~5~~ ~~6~~ ~~7~~

百億 5 6 7 8 9

千億 ~~1~~ ~~2~~ ~~3~~ ~~4~~ ~~5~~ ~~6~~

序 数

一、二

1

百二十五、六

125

十七、八十

17

一万二、三千

12

三十、三十一

3

二、三

2

十四、五

14

二、三の

2

百五、六十

15

三十、四十

3

二、三、四

2

※ ある数字の下部に加算して一つ大きい数を現わす。

5ない6

5/6

25ない40

25/4

第

1 2 3

※ 914 第

章 條

10 20 30 40 50

※ 1以外の円符号を並にあてる。

10 20 30 40 50

九 々

二二が四

四五、二十

2/4

2/4

4/2

分 数

四分の1

4/1

百分の1

1/100

歩 合

三 割

2.3割

3/

2/

パーセント

25パーセント

2.1パーセント

25/

2.1/

対

6対2

15対3

6.2

15.3

年.月.日.時

明治25年

25

明治

メの14線

大正13年

13

大正

9の14線

昭和27年

27

昭和

昭和20年8月15日

25<sup>8</sup>15

5月4日

5/6

または

5/6

午 前  
午 后

3月6日午前6時10分

36 6.4

9月1日午後1時5分

9' 1.05

昭和27年4月28日午後10時30分

27<sup>4</sup>28 11.3

# 換記法

## 24. 類似音換記法

類似音換記法とは、運筆上連続のしにくいものは、類似した他の音に書き換えることによつて簡易化するという方法で、イとエを混同する方言現象などで利用するものその一例である。

(例)

おまえ

朝日新聞

名前

## あとがき

この本は上下二巻に分け、上巻には縮記法を、下巻には略記法を収録した。

もちろん各巻とも、その原理、法則の説明だけに止めてあるので、符号運用の実際について、または学習の順序、方法などについては述べられていない。

### 非 賣 品

無断転載を禁ず

昭和27年4月25日印刷  
昭和27年5月3日発行

編 集 中根速記協会香川県支部

香川県高松市栗林町268

発行所 中根速記協会香川県支部